

タイトル	『井戸端会議』	
配役	近所の人A 近所の人B 近所の人C ナレーター	
ナレーター	<p>地域で仲よく暮らし、助け合ってきた人が、認知症ではないかと気づいたとき、どうしたらいいでしょうか。</p> <p>太郎さんは、息子さん夫婦と同居し、元気で畑仕事も続けていますが、最近、物忘れがひどくなっているようで、近所の友達が心配しています。</p> <p>今日も、太郎さんの話になりました。</p> <p>3人が、腰かけて話をしている。</p>	
A	あのなあ、太郎くんのことだけど、日にちは間違えるし、言ったことも忘れるし、おかしいと思わないか。	
B	なーに、年のせいだろ、誰でも年取ったら、よく忘れるわ。	
C	でも、この前、老人クラブで城崎に行ったことも忘れて、「そんなところ行ったかな」って言ってたよ。	
A	そうか。普通の物忘れなら、行ったことまで忘れないものなあ。	
	家の人には知ってるのかね。	
B	奥さんは亡くなったし、若い人は仕事に行ってるし、そんなことまで気がつかないんじゃないか。	
C	言ってあげたほうがよいんだろうか……。	
A	いやいや、人の家のことは、口出ししない方がいいよ。	
B	そうだなあ、黙っとこうか。	
C	そうしよう、そうしよう。	

ナレーター	<p>いかがでしたか。みなさんのお仲間の中でも、こんなことはありませんか。このごろ変だなあと最初に気がつくのは、近所の幼なじみだという研究の結果もあります。若い人と同居していても、会話もなくて案外気がつかれません。</p> <p>認知症は、早期発見、早期治療が大切です。</p> <p>それでは、こんな時、どうしたらいいでしょうか。</p> <p>先ほどの3人に考えてもらいましょう。</p>	
A	<p>あのなあ、太郎くんのことだけど、日にちは間違えるし、言ったことも忘れるし、おかしいと思わないか。</p>	
C	<p>そうなんだよ、この前、老人クラブで城崎に行ったことも忘れて「そんなところ行ったかな」って言ってたよ。</p>	
A	<p>そうか。普通の物忘れなら、行ったことまでは忘れないものなあ。</p>	
B	<p>奥さんは亡くなったし、若い人は仕事に行ってるし、家の人には、そんなことまで気がつかないんだろうなあ。</p>	
C	<p>認知症は、病気だし、早期発見・早期治療が大切らしいから、家族に言った方がよいけど、どう言ったらよいか。</p>	
A	<p>むずかしいなあ。「あなたのところのおじいさん、おかしいよ」・・・と言うのもなあ・・・</p>	
B	<p>「認知症じゃないか」・・・言っても、気を悪くするだろうしな。</p>	
C	<p>とりあえず、太郎くんの実事だけを伝えよう。</p> <p>「最近、よく忘れて、老人クラブで城崎へ行ったことも忘れてるので、心配しています」って言って。</p>	
A	<p>そうだなあ。それで、どうしたらいいですかと言われてたら、市役所に「包括支援センター」というところがあるから、そこへ行ったら良いみたいですよ・・・と言うのはどうかな。</p>	

B	<p>そうだなあ。もし、認知症だったら、早めに病院へ行って、良い方法があるかもしれないし・・・</p> <p>僕が、そうなっても君らが言ってくれよ。</p> <p>家の者にも、こんなこと言われたら、怒らないようにして、早めに相談しに行くように言っておかないといけないなあ。</p>	
C	<p>確かに。</p>	
A	<p>そうだね。</p>	
ナレーター	<p>いかがでしたか。気になる行動がみられるばあいは、家族の方には、まず、事実だけを伝えて、心配していることを伝えましょう。</p> <p>どうしたらいいでしょうと聞かれたら、市役所に地域包括支援センターがあることを伝えてください。</p> <p>認知症を早めに治療して、住み慣れた地域で暮らしていくために、みんなで理解し合い、支えあっていきましょう。</p>	